

鯉のぼり

2011・3・11の東日本大震災で1人旅だった坊やからのメッセージ

山岡富美 作

おかあさーん おかあさーん

僕の声が聞こえる？

あの日、僕が幼稚園から帰ったら

「これから、お買いものに行くから、僕はひとりでお留守番ね」とおかあさん。

「いいよ、僕ひとりでお留守番するよ」といったんだよね。

でも、ほんとはね、僕はお母さんと一緒に行きたかったの

何故って、あのスーパーには、僕がどうしても、どうしても買ってほしい物があつたの。秘密だけどね。

だから、一緒に行きたかつたけど僕は、もう、お兄ちゃんになつたんだから、わがままは、言わないつて前々から決めていたの

だから、僕、我慢してお留守番するつて言つてしまつたの

おかあさんに、褒めてもら^いたかつたの。

お母さんが行つて少したつたら、ドスンと大きな音がして、おうちがグラグラと揺れ、ギシギシと音がして、起つて居られなくなつたんです。

僕はこわくなつて、台所の柱に、つかまつたの

でもグラグラがだんだん大きくなつて、台所の食器入れの窓ガラスが壊れて、

僕の頭にガラスが降りかかつてきたんです。

僕は、外に出ようと思つて、玄関に行つたら、ドアが壊れてドドドツと水が入つてきて、いっしょに流されてしまつたの。汚い水と一緒に。

僕怖かつた。ほんとに怖かつた。一人ポツチなんだから。

お母さんと一緒に、行けばよかつた。なんにもいらない。手をつないで一緒に行けばよかつた。

そのうちに、船や車が流れてきたの、車のなかには僕と同じ位の子どもが乗つてるのが見えたの。

流れてきた木につかまつたけど、僕を置いて凄い勢いで流れていったの。

気がついたら、僕の身体は空を飛んでいるのです。

なぜつて？海が見えるんです。船も。

ホラ、夏に毎日みんなと遊んだ砂浜が見えます。

大きな波をかぶった僕が、大空を泳いでいるの。

でも、お隣の武君も、かおるちゃんも何故か居ません。

僕、寂しいな。みんなに会いたい。

お父さん、お母さんにも。

妹のユナ、いまどうしてる？

僕 会いたい。いますぐに会いたい。

お母さん僕、今日、鯉のぼりをみつけたの

コンクリートのかどのところに。

そうだ、あそこが、僕のお家なんだね。

「今年こそ、鯉のぼりを建てようね」って約束してたっけね。

空からはつきりみえるよ

僕が、迷わずに家に帰れるように、建ててくれたのね

ありがとう。ほんとにあるがとう。

お母さん、いままでご免なさい。

妹をいじめて、泣かせたり

幼稚園に行きたくないと、お母さんを困らせたり

おねしょをしても、「僕じゃない」っていいはったり

でも、僕が熱を出した時、一晩中付き添ってくれ、熱が下がったら、歌を歌
つてくれたおかあさん。

自転車で、転んで怪我をした時、僕をおぶってお医者さんに走ってくれた
お父さん。僕は、痛くて痛くって背中がワンワン泣いてました。

僕は大きくなったら、海で働くお父さんの、あとつぎになって、
おいしいお魚を、みんなに食べてもらいたい。と思っていたの
だって、おとうさん、カッコよかったもの

こいのぼりを目指して僕は帰ります。

きつと きつと 帰ります。

まっつてね。

お父さん、お母さんの子供でよかった

お母さん。僕を産んでくれてありがとう。

完